環境経営レポート

（令和 5 年度：令和 4 年 11 月～令和 5 年 10 月）

奥山スポーツ土木株式会社

令和 6 年 1 月 31 日発行

1.　会社概要

1)　事業者名及び代表者名

奥山スポーツ土木株式会社

代表取締役　奥山勝大

2)　所在地

東京都武蔵野市境 2-8-4

3)　環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者　奥山勝大

担当者　堀　江哉

連絡先　0422-52-1313　　FAX　0422-52-1314

4)　事業内容

①　運動場施設の設計施工

②　一般土木の設計施工

③　造園業の設計施工

5）事業規模

	（2021 年度）	（2022 年度）	（2023 年度）
売上	213 百万円	179 百万円	308 百万円
従業員	6 名	6 名	6 名

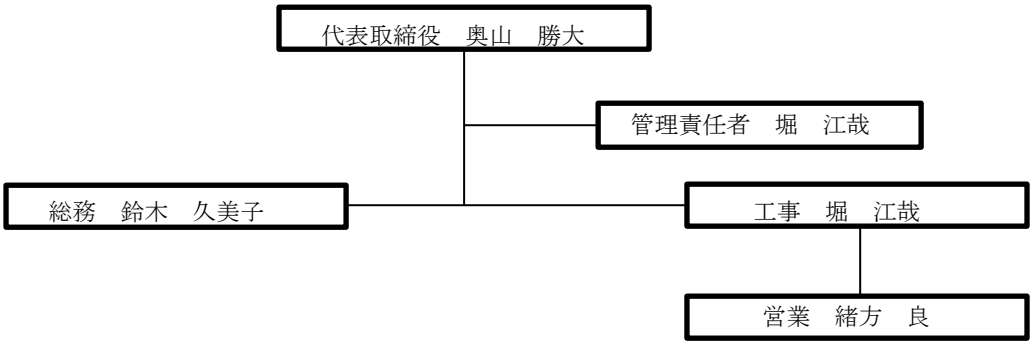
6)　沿革

昭和 22 年 4 月　　創業

昭和 39 年 6 月　　奥山土木株式会社　　設立

昭和 55 年 7 月　　奥山スポーツ土木株式会社　　社名変更

7)　エコアクション 21 の取組全体図



2.　環境経営方針

社長は、環境経営に関する方針を定め、取り組みを明示し周知することに対して下記のとおり守ります。

1）環境方針において法的要求事項を満たすことが、如何に重要であるか組織内に社内ミーティングを通じて周知する。法的要求事項を遵守します。

2）環境方針や目標を下記の通り明示し周知する。

企業理念

スポーツ施設建設の技術を通じてお客様の満足を高め、更なる技術の向上を追求し永続的な発展を目指す。

環境方針

1. EA21 に積極的に参加し、これを運用し維持する。
2. 技術と環境を重視し、お客様に良い品質と信頼性を提供する。
3. 社内教育を実施、啓発し一社会人として環境の保全意識の向上を図る。

平成 20 年 1 月 10 日

東 京 都 武 蔵 野 市 境　2-8-4

奥 山 ス ポ ー ツ 土 木 株 式 会 社

代 表 取 締 役　　奥 山 勝 大

3. 令和 5 年度環境経営目標（令和 5～7 年度の中期環境経営目標）

1）二酸化炭素排出量（自動車を含む）を年間 0.5%削減（従業員あたり）

2）紙使用量　前年度維持（従業員あたり）

3）産業廃棄物再資源化率を 85%以上に維持する。

4）水使用量削減　前年度程度

5）工事成績評価 75 点以上

6）グリーン購入

※化学物質は、PRTR 法等の該当物質の使用がないため、目標を設定しない。

4. 環境負荷の状況

1　二酸化炭素排出量

（オフィス）

項　目		単位	2021	2022	2023
燃料	都市ガス	kg-CO2	372	419	380
	灯油	kg-CO2			
購入電力		kg-CO2	2736	2633	2038
二酸化炭素排出量（自動車を除く）			3108	3052	2418

2023年度電力の排出係数　　0.376（kg-CO_2/kWh）

項　目		単位	2021	2022	2023
燃料	ガソリン	kg-CO2	14,408	11,766	15,515
	軽油	kg-CO2	2,276	1,347	1,808
			16,684	13,113	17,323

年　度		2021	2022	2023	単位
自動車を除く	従業員あたり	518	436	345	kg-CO2/人
自動車を含む	従業員あたり	3,299	2,309	2,820	kg-CO2/人

2　産業廃棄物処分量

産業廃棄物等種別	2021	2022	2023
金属くず	13,562	1,695	2,712
廃プラスティック	10,290	9,555	34,335
ガラス・陶器	0	10,800	11,520
コンクリート	208,100	0	6,900
その他	5,720	2,683	3,733
合計(kg)	237,672	24,733	59,200

産業廃棄物再資源化量

産業廃棄物等種別	2021	2022	2023
金属くず	13,562	1,695	2,712
廃プラスティック	10,290	9,555	34,335
ガラス・陶器	0	0	0
コンクリート	208,100	0	6,900
その他	5,720	2,683	3,733
合計（Kg）	237,672	13,933	47,680

その他:　ガレキ　クズ木材　クズ紙

再資源化率	100.00	56.33	80.54

再資源化	2021	2022	2023
従業員あたりkg/人）	16.7	9.4	13.4

3　資源利用量

資源使用量	2021	2022	2023
上水道（m3）	66	70	55
合計	66	70	55
コピー用紙（kg）	13.2	24	13.2
合計	13.2	24	13.2

2023

資源名	従業員当り	単位
水	6.9	m3/人
紙	1.7	kg/人

2022

資源名	従業員当り	単位
水	10.0	m3/人
紙	3.4	kg/人

2021

資源名	従業員当り	単位
水	9.4	m3/人
紙	1.9	kg/人

4　総排水量

年度	2021	2022	2023
上水道	66	70	55

排水量は上水量と同じとみなす。
工事現場における水の使用量は発注者支給のため算定から除外する。

＊　二酸化炭素は本社周囲を対象とし、産業廃棄物は、本社工事現場を対象とする。
＊　再資源化率＝再資源化産業廃棄物÷産業廃棄物×100%
＊　一般廃棄物は、産業廃棄物から比べてミクロ的なので対象外とした。
＊　事業活動において　NOX、化学物質、水の取扱はない。

5. 環境行動計画と実施状況・評価・次年度の取組（計画）

2023 年度　　2024 年度

推進項目		推進内容	実施部門	11 月～10 月	評価（三段階○△□）	次年度取組
1	CO2　0.5%削減	ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ抑制、OA 機器節約	総務課 工事部	毎月社内ミーティングによる状況報告と指示、改善	○	継続
2	紙 1%削減	裏紙使用	総務課		○	継続
3	産業廃棄物の削減を年間 1%の削減	分別の推進。リサイクルの推進	工事部		○	継続
4	産業廃棄物再資源化を 85%以上に維持する。	分別の推進及び徹底。	工事部		△	計画時の検討
5	水使用量削減前年度程度	節水の徹底	総務課		○	継続
6	工事成績評価 75 点以上	騒音、振動、粉じん等の対策の徹底	工事部		○	継続
7	グリーン購入	不溶土使用を顧客に提案	工事部		○	継続

6. 環境目標の達成状況と評価

(1) 二酸化炭素排出は前年比 22%の増となった。また、ガソリン燃料等は 32%増となった。電気は使用量が 7%減であった。燃料増加はコロナから行動範囲が大幅に拡大したためであろう。
(2) 紙使用量は前年比 45%の減であった。裏紙が再利用されていると考えられる。引き続き努力する。
(3) 2023 年度再資源化率は 80.54%だった、2022 年より改善された。廃棄の中の陶器ガラス類がリサイクルとはならなかった為目標値を下回ったと考えられる。
(4) 水の使用は、若干改善された。啓蒙活動して引き続き努力する。
(5) 工事完了後全員で社内 M を行い評点の結果について討論している。工事の品質精度や環境への配慮に気を配る資質が出てきている。評価点 80 点以上が 2 件あった。努力のたまものである。点数アップに社内検査、騒音・振動等の対策を引き続き徹底する。
(6) 2023 年度はニュークレイの購入は 1200 ㎥であった。再生土量の需要は多いものの昨年度より需要が少なかった。引き続きグリーン購入の促進に努力したい。

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守に関しては、下記評価のとおりでした。
環境関連法規の違反については関係機関等の指導等は無く訴訟等も有りませんでした。

振動規制法・・・・違反なし（特定建設作業において）
騒音規制法・・・・違反なし（特定建設作業において）
東京都環境確保条例　　環境目標（1）(2)（3)・・・・違反なし
（抜粋　ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ・自動車公害対策・土壌及び地下水の保全対策）
建設リサイクル法・・・・違反なし
武蔵野市環境条例　　環境目標（1）～（5)・・・・ 違反なし
廃棄物処理法　　環境目標（3）(4)・・・・・・違反なし

8. 代表者による全体の評価と見直し

本年は、コロナがＶ類に変わり仕事量も順調に増えてきている。
輸入品も徐々にコンテナの取り合いが少なくなり納品計画も順調に改善されつつある。
ウクライナ戦争だけでなくイスラエル・パレスチナ戦争まで勃発し世界情勢は混とんとしているが、物資は入ってきている。
さて、我が社の課題は、担い手不足からどのように仕事を回すことができるか知恵を出さなくてはならない。
会社の技術において、機械化は重要な要素である。機械化は、生産性を向上させ、労働者の負担を軽減するために導入されている。
例えば、グラウンド工事の整地をブルドーザーの自動運転により行うことがすでに始められている。
機械化は、作業の効率が向上し、品質も一定に保たれる。これは顧客にとって信頼性のある製品を提供するために重要である。
また、機械化は人的ミスを減らすことにも繋がり、お客様からの信頼を築くことに寄与できると確信している。
工事評価成績評価点が 75 点に達するように、工事完了後の社内検査、近隣住民のケア（工事の騒音・振動・防じんクレーム予防)、クレーム事後処理を引き続き強化したい。
クレーム処理の本筋は適切な初期対応にある。お客様、近隣者の気持ちを優先してケア出きるように社員教育をしていきたい。
毎月一回の社内ミーティングでは、各社員の環境に対する配慮度をチェックしている。
常に見られているという意識を持たせ品質の高い工事を目指すようすすめている。
再資源化率の目標については、少々上回った。処分品の種類が大きく変わったためであるが、改善するようすすめていく。
二酸化炭素排出量を減らす努力は、わが社の規模ではそろそろ限界を感じる。
これに代わる「環境配慮型資材の利用」例えば、グラウンド等にニュークレイを活用しリサイクルを進めることで Co2 を削減できる工法を積極的に勧めていき、さらにはこの工法が社会に利益をもたらすことであれば弊社としても喜ばしいと考える。更に努力したい。

以上